

至第三
款參考
第三十
九條ヲ
見合セ

但産國ト現今ノ貫屬府縣ト異ル者ハ表首何郡所産ト書スルノ
上ニ其産國ノ府縣ヲ加ヘ若又寄留スル所ニ於テ服役スル者ハ
何郡所住ト書スルノ替リニ其寄留スル府縣及ヒ何郡所寄留ト
書スヘシ

第三條 徴兵ノ體質ヲ検査スル時ハ徴兵副使議官各一名列坐スル
查ノ件々ハ總ヘテ軍醫ノ專任タルヘシ

第四條 徴兵検査ノ席ニ出ツル時ハ各個人別表ヲ所持シ醫官ニ渡
ス醫官ハ書記ヲ掌ル者ニ渡シ姓名ヲ検査簿ニ留メシメ身体骨格檢
査ノ件々ヲ記セシム

第五條 検査呼出シノ時ニ病氣ニテ出席成リ難キ者ハ時トシテハ

其家ニ就キ診斷ノ上一時或ハ固着等ノ病質ヲ糺シ一時病氣ノ者ハ翌年ノ徵兵ニ迴シ固着ノ者ハ免役規則宿痼ノ者同斷タルヘシ

第六條 検査呼出シノ時ニ父母ノ喪ニ罹リ未タ三週間ヲ過キサル者或ハ父母ノ重病及ヒ一家ノ安危ニ係リ一時止ムヲ得サル事故出來ノ者ハ夫々詳細書及ヒ戸長ノ証印ヲ以願出ル者ハ翌年ノ徵兵ニ迴スヘシ

但翌年ニ迴スヘキ徵兵ハ府縣毎ニ別簿ニ認メ徵兵署ノ檢印ヲ押

シ府縣廳ヘ留置キ當冬ノ徵兵連名簿ト共ニ陸軍省ヘ差出スヘシ

第七條 徵兵署ニ隔タリタル區邑ハ副使軍醫副以下ノ醫官及ヒ議官一行トナリ組ヲ分テ巡迴セシメ相應ノ場所ニ於テ假リニ検査場ヲ設ク其式本署ニ異ルコトナシ

第五章 抽籤並ニ讀算試験 (第三款參考第 七條ヲ見合)

本章第 三款參 考第 三 十八條 ヲ見合

第一條 身体検査終リタル後検査簿ヲ案シ兵役ニ適スヘキ者ヲ點檢シ府縣毎ニ常備抽籤召集ノ爲メ其定日及ヒ場所共前以布達スヘシ

第二條 抽籤ノ場所ハ府縣廳所在ノ地或ハ管内便宜ノ地ヲ以ス

第三條 抽籤ヲ五種ニ分テ其身材ニ從ヒ步騎砲工輜ノ籤ヲ抽カシム充兵トシ九十日ヲ期トシ常備一ケ年ノ徵兵二分ノ一以内ノ員數ヲ常備籤ト同時ニ抽カシム

第五條 抽籤ノ法ハ籤丁ヲ調ヘ左式ノ如ク籤札ニ其員數丈ノ番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿方ノ側ニ置キ區分ケ或ハ郡分ケニシテ混雜セサル様一人宛之ヲ抽カシメ籤簿方ハ始終籤簿ニ對シ抽籤ノ正不正ヲ監シ抽キ舉クレハ其番號ヲ自高聲ニ唱ヘシメ籤札ヲ受取り籤簿ニ姓名番號ヲ記シ復之ヲ當人ニ返ス

假令ハ籤丁五百人ナルルハ第一番ヨリ五百番迄ノ札ヲ納レ之ヲ
抽カシム本年常備定員二百人補充百人ナルルハ二百番迄ノ籤ヲ
抽キシ者ヲ常備トナシ二百一番ヨリ三百番迄ノ籤ヲ抽キシ者ヲ
補充トシ其餘ヲ以落籤トス

(步) (騎) (砲) (工) (輜)
何 番

籤札ハ厚紙縦横三ツ或ハ四ツ切
ニシテ四ツ折ニナシ中分ヲ拈ル

第六條 抽籤當日病氣ノ者ハ父兄親族又ハ戸長ヲ以テ代人トス

第七條 抽籤以前ニ常備幾人補充幾人及ヒ籤丁ノ總員幾人ト白紙
ニ大書シ籤丁ヲシテ之ヲ知ラシムヘシ

第八條 抽籤終リ常備及ヒ補充當リタル者ハ書翰往復算術等出來
得ルヤ否ヤヲ試ムヘシ

番號割符

第九條 書翰並ニ算術ノ試験ハ筆生ノ内算術ヲ心得居ル者ヲ撰任
シ試験場ヲ設ク其仕法ハ二三行ノ翰牘ヲ讀ミ易キ様三四枚認メ並
ニ十露盤等備ヘ置キ一人宛讀文算術ノ内出來得ルヤ否ヤヲ問ヒ出
來得ル者ニハ讀文ハ右翰牘ヲ讀マシメ無滞讀ミ得ル者ヲ上等トシ
二字以上誤ル者ヲ下等トナス算術ハ除法以下誤リナキ者ヲ上等ト
ナシ誤リアル者ヲ下等トナス

第十條 試験全ク終ハルノ後籤簿ヲ照シ人別表ト引合セ姓名住居
其他共左式ノ如ク厚紙長サ五寸幅三寸ノ割符ニ書載セ籤簿ニ引合
セ割印ヲナシ番号並ニ服役年期ヲ書加ヘ籤簿順ニ呼出タシ籤札ヲ
出タサシメ相違ナキ者ヘハ籤札ト右番號割符ト引替ヘ相渡スヘシ

割印		何府縣何郡所住居何族或職業
年	號	
日	月	親名何男或兄叔伯名弟甥又厄介
陸軍省		
兵種	番号	何 某
右何鎮台常備軍三ヶ年服役申付候事		

補充籤ヲ抽キシ者ハ

右何鎮台補充兵九十日服役申付候事

第一後備軍ニ入ル者ハ

右何鎮台第一後備軍貳ヶ年服役申付候事

第二後備軍ニ入ル者ハ

右何鎮台第二後備軍ニヶ年服役申付候事

第十一條 補充役ヲ命セラレタル者ハ其家ニ歸居シ常備缺員ノ節ハ其鎮台ヨリ籤順ニ布達シ何時ニテモ入營ナサシムヘキニ付キ服役中ハ其管内ヲ出ツルヲ禁ス

但本年常備兵入營期限初日ヨリ算シ九十日目ノ其日迄ニ常備入營ヲ命セラレサル者ハ即除役ト心得ヘシ

第十二條 補充ヨリ常備軍ニ命セラレタル者ハ本人入營ノ月日ニ拘ラス總テ自分同年ノ常備兵入營期限初日ヨリ三ヶ年ノ期ヲ保ツヘシ

第十三條 常備軍滿期ノ者ハ後備軍ノ番號割符ヲ渡シ而常備役ノ番號割符ニ滿期ノ檢印ヲ押スヘシ

第十四條 第一後備軍滿期ノ者ハ第二後備軍ノ番號割符ニ滿期ノ

本章第
三款參
考第十
條ヲ見
合セ

第十七條 徵兵出席ノ名簿ヨリ代人料上納名簿免役名簿其他種々ノ願書及ヒ屆書區長戸長ノ取調ヘ証書總ヘテ徵兵ニ關スル書類ハ一切兵卒明細連名籍ト共ニ陸軍省ヘ差出タスヘシ

第六章 徵兵雜則並ニ扱方

第一條 常備籤ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨリ五月一日迄ニ入營致スヘシ其營所迄ハ府縣毎ニ區括リニシテ區長或ハ戸長ノ内召連レ出ツヘシ最營所ニテハ籤ノ番號ヲ目的トシテ入營ナサシムヘキニ付キ齟齬ナキ様注意スヘシ尤入營迄ノ入費ハ總テ徵兵入費概則ニ照準シ賜ハルヘシ若事故アリテ入營遲緩ニ及フキハ其事故ヲ生スル所ヨリ辨スヘシ

但書中區括リト稱スル者ハ區ノ大小人口ノ疎密ニ由リ二區或ハ三四區括リ總テ府縣ノ便利ニ從フ

本章第三款參
考第十四條
ヲ見合

第二條 籤ノ番號ハ服役中ノ目的タルヘキヲ以各箇丁寧ニ所持致スヘシ

第三條 病氣或ハ事故出來期限通り入營相成リ難キ者ハ其段詳細ニ書認メ區戸長及ヒ其病氣事故ニ係リタル者ノ証印ヲ取り其筋ヲ經テ至急ニ其鎮臺ヘ届出ツヘシ

第四條 常備軍服役在營中其身元轉居スルキハ其父兄或ハ親族ノ者ヨリ直ニ本人ニ通報シ本人ヨリ自己所屬ノ下士ヘ届出ツヘシ歸休中ノ者ハ第九條第一後備服役中轉居ノ届同斷タルヘシ最自己所屬ノ下士ヘモ同様届ケ出ツヘシ

第五條 常備軍服役中歸休郷里ニ在リテ死没スル者ハ其戸主ヨリ其筋ヲ經テ鎮臺ヘ届ケ出ツヘシ

第六條 常備軍在營中病氣ノ者ハ軍醫ノ診斷ヲ以病院ニ入レ治療

本章第三款參
考第十五條
見合

セシメ其上ニテ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ兵籍ヲ除スヘシ最歸縣迄ノ旅費ハ定則ニ照準シ賜ハルヘシ

第七條 父母ノ重病或ハ非常ノ事故出來一時止ムヲ得スニテ歸省ヲ願フ者ハ其親或ハ親族ノ者ヨリ府縣廳ノ與書証印ヲ以所管ノ鎮臺ヘ願出ツルニ於テハ詮議ヲ遂許可スヘシ最滞郷日數ハ往來ヲ除クノ外二週間ヨリ長カルヘカラス

但旅費ハ往來共自辨タルヘシ

第八條 第一後備軍ノ復習期限ハ年々十日以前ニ其鎮臺ヨリ布達シ旅費等ハ徵兵入費樂則ニ照準シ里程ニ應シ相渡スヘシ若病氣或ハ事故出來ノ者ハ第三條ノ通り届出ツヘシ

第九條 後備軍服役中同府縣内ヘ轉居スルキハ左ノ第一式ノ通り戸長ノ姓名與書証印ヲ取り其筋ヲ經テ鎮臺ヘ届出ツヘシ若他府縣

へ轉居スルキハ同軍管ナレハ左ノ第二式ノ通り他軍管ナレハ同式
中兵籍御送り方ノ字ヲ第何軍管第何後備軍へ御編入替ト認メ前手
續ヲ以願ヒ出ツヘシ

第一式

私儀此度何郡所へ轉居仕候間此度御届申上俟以上

何府縣何郡所仕何族或ハ職業

年号月日 年号第一(二) 何某印
後備軍第何番

何鎮臺
御中

前書之通相違無御座候以上

何郡所戸長 何某印

第二式

私儀此度何府縣何郡所へ轉居仕候間兵籍御送り方相成度此段奉
願候以上

何府縣何郡所仕何族或職業

年号月日 年号第一(二) 何某印
後備軍第何番

何鎮臺
御中

前書之通相違無御座候以上

年号月日 何府縣何郡所戸長 何某印

第十條 後備軍服役中ノ者若院省使廳府縣ヨリ登庸セント欲スル
并ハ其官廳ヨリ其鎮台へ掛合フヘシ

第十一條 後備軍服役中死没ハ其戸主ヨリ其筋ヲ經テ鎮台へ届出
ツヘシ若國禁ヲ犯シ或ハ脱走等ノ者アルキハ其府縣廳ヨリ箇條書

本章第
三款參
考第二
十八條
二十九
條共ニ
見合セ

本章第
三款參
考第十
七條ヲ
見合セ

ヲ以届出ツヘシ

第十二條 全國ノ男兒齡十七歳ヨリ國民軍籍ニ入り外寇又ハ有事ノ時ニ當リ隊伍ニ編入シ或ハ守衛トナシ或ハ征軍ナサシムヘキヲ以テ十六歳冬十一月十日マテニ其戸主ヨリ戸長ヘ届出ツヘシ最一家ノ主人タル者ハ自分ヨリ届出ツヘシ戸長之ヲ取調ヘ所轄ノ區ヘ差出タシ區長點檢ノ上區括リニシテ府縣廳ヘ指出タシ翌年ノ國民軍名簿ニ載セ之ヲ備ヘ置キ而國民軍人員表ヲ製シ陸軍省ヘ指出タスヘシ

(九年四月一日達成丁簿)
ナ國民軍名簿ト改正

第十三條 男兒二十歳ニ至レハ兵役ニ就クヘキヲ以毎年十二月廿五日迄ニ府縣廳ニ於テ十九歳ノ者ヲ調ヘ徵兵連名簿ニ載スルコトス是故ニ十九歳ノ者ハ其年ノ十一月十日迄ニ必ス戸長ヘ届出ツヘ

シ戸長之ヲ取纏メ其内免役ニ適スル者アレハ篤ト取調ヘ夫々簡條書相添ヘ區長ヘ差出スヘシ區長ハ十一月三十日迄ニ區括リニシテ証印シ府縣廳ヘ差出タスヘシ府縣廳之ヲ點檢シ徵兵連名簿ニ載セ十二月廿五日迄ニ陸軍省ヘ差出タスヘシ最免役ニ適スル者ハ區々ヨリ差出タシタル免役簡條書ヲ取糺シ免役連名簿ヲ作り各簡條ヲ詳細ニ書載セ徵兵連名簿ト共ニ指出タスヘシ其中學徒ハ夫々其修業スル處ノ學校ヘ掛合ヒ教官ノ証書及ヒ科目免許書等取寄セ置キ徵兵使巡行ノ日指出スヘシ若右証書科目書等之ナキ者ハ一月中ニ呼返シ置クヘシ最洋行修業ノ者ハ此例ニアラス

第十四條 寄留スル者ノ子弟及ヒ厄介タル者ハ現今寄留スル府縣ノ兵籍ニ入ルヘシ

但本籍ニ歸リ兵役ヲ勤メント欲スル者ハ十九歳十一月十日迄ニ

其段ヲ戸長ニ届ケ戸長ヨリノ送り書ヲ以テ本籍ニ歸ルヘシ
 第十五條 本年徴兵ニ當リ自己ノ便宜ニ由リ代人料二百七十圓上
 納願出ツル者ハ常備後備兩軍共之ヲ免ス
 免役上納金ハ其府縣廳ニ纏メ五月中ニ陸軍省ヘ相納ムヘシ
 第十六條 免役ヲ願出ツル者ハ其親或ハ親族ノ者ヨリ徴兵使巡行
 徴兵検査以前左ノ願書ヲ認メ戸長ノ與書証印ヲ以區長ヘ指出タシ
 區長ヨリハ徴兵署ニ指出タスヘシ
 其親或ハ親族ノ者願書並ニ
 戸長與書案文
 何男
 私弟甥何某儀當年二十歳ニ相成服役可仕等之處家事差支有之ニ
 親族
 付代人料金二百七十圓上納仕候間何卒常備後備兩軍共御差除被
 下度奉願上候以上

何府縣何郡所仕何族或ハ何職業

年號月日

何某印

陸軍徴兵署
御中

前書願出之通相違無御座候以上

全日

何郡所戸長

何某印

區長進達書案文

當區内免役願出候者幾名戸長ヨリ與書証印ヲ以テ別冊之通差出
 候間精細吟味仕候處毛頭不都合ノ筋無御座候間及進達候也

年號月日

何郡所第何大區長

何某印

陸軍徴兵署
御中

第十七條 徵兵ニ關スル事件ニ付キ年齡及ヒ父母兄弟ノ有無又ハ
虛病其他詐偽スル者ハ官ヲ欺罔スルノ罪若又戶長或ハ區長取調ヘ
証印ノ上ハ其証印ヲナセシ官吏ハ粗漏ノ罪尙又徵兵ノ欺妄ヲ隱匿
スル者ハ其罪最重カルヘシ右孰モ常律ヲ以其罪ヲ糺ス可キナリ

○第三款 陸軍 達 八年十一月改訂徵兵令參考

徵兵ノ法タル專ラ陸軍ニ屬スト雖ヒ又民政ノ一部タルヲ以テ地方
官ノ任亦其重キニ居ル夫地ニ生シ官ニ収ムル者之ヲ租稅ト云フ地
方官實ニ之ヲ掌ル是故ニ租稅ノ納ラサル責ヲ地方官ニ任ス今地方
官ニ任スルノ民ヲ以國ヲ護ルノ兵トナス然ラハ則兵ノ未熟ナル陸
軍ニ於テ其責固ヨリ敢辭セサル所ナリ抑徵兵ハ未全シ兵トナラサ
ルノ稱ニシテ兵トナルベキ者ヲ貢スルノ謂ヒナリ而兵ハ骨格體質
ヲ擇フヲ主トス此強兵ノ基ク所ニシテ實ニ護國ノ基本陸軍ノ本務

ナリ是故ニ徵兵使アリ軍醫アリ以テ丁壯ヲ検査ス今其検査ニ當
ル者ハ則地方所轄ノ民タルハ未全シ兵タルヲ得サル者ニシテ猶
ト異ルナシ故ニ云フ地方官ノ任其重キニ居ルト明治五年
勅意ヲ以テ普ク徵兵令ヲ布ク然レヒ其法極メテ簡易唯ニ其要領ヲ
舉クル而已故ニ支務末事ニ至リテハ往々地方ノ疑フ所トナリ諮問
往復徒ラニ時日ヲ費ヤス是ニ於テ今本令ヲ說解シ一部トナシ以テ
地方ニ分與シ又其闕ヲ増補シ遂ニ徵兵ノ事ヲシテ
上意ニ適ヒシメノ事ヲ要ス

第一條 本令第二章第一條ニ示シタル徵兵署ハ府縣廳所在ノ地ヲ
以相當ノ場所トナスト雖ヒ管内中央集合便宜ノ地ニ設クルヲ最好
トス其一部ノ検査場ハ丁壯ヲシテ暫時裸體ナラシメ眼色耳孔ヨリ
全體ヲ検査シ遂ニ四支ノ運動ニ及ホスヲ以テ官舎或ハ社寺等ノ家

屋與行八間間口五六間以上成丈明カナル温室ヲ要ス又本令第四章第七條ノ例ヲ踐ミ區邑ヲ巡迴シ檢査スルヲ以豫メ管内集合最寄ノ地ヲ各所ニ見立本年徵兵多寡ニ應シ大凡一所二百人トシ或ハ二ヶ所或ハ三ヶ所其宜キヲ計リ前ニ示ス如キ檢査場ヲ確定シ例年徵兵連名簿進達同時ニ右徵兵署並ニ各所檢査場及ヒ各所徵員且廳下ヨリ各所檢査場ヘノ里程等詳細ニ申出ツヘシ

但巡迴檢査ハ徵兵署隔遠ノ者ヲシテ往復ノ費用ヲ省カシメノ爲ニスルヲ以檢査場ヲ四五ヶ所ニ設ケ或ハ管内ノ總員ヲシテ悉ク徵兵署ニ集合セシムルモ實地ノ適宜ニ任ス

第二條 本令第一章第六條ニ示シタル徵兵議員ニ區長戸長ヲ以任スル者ハ民間苦情ノ上伸シ易キ爲ナリ且其議員ハ全ク本年丁壯ノ總代ニシテ丁壯中事故アリ一家生計ニ係ル等ノ苦情アルルハ敢テ

壯丁ニ代ツテ建議スルヲ職トス是故ニ區長戸長ニ限ラス鄉村中ノ人望アル者ヲ以スルモ妨ケナシ又丁壯ヲ郡或ハ區括リヨシテ議員ニ配賦スヘシ假令ハ甲郡區ノ丁壯ハ何某議員ニ總括シ乙郡區ノ丁壯ハ何某議員ニ總括スト云フカ如シ復議員ノ數ハ檢査スル所ノ區數ニ倍スル者ハ前條ニ示シタル各所檢査場毎ニ約議員二人宛ヲ要スルノ謂ヒナリ最檢査場ヲ合併スルルハ相當ノ議員ヲ加フヘシ備醫筆生ノ員數モ亦之ニ同シ

第三條 本令第二章第一條ニ示ス如ク毎年二月十五日ヨリ徵兵使發行シ四月十日迄ニ復命スルヲ定例トス是故ニ其時間ハ豫メ本年徵兵連名簿ニ記載ノ内他所ニ寄留シ呼返スヘキ者ハ勿論舟業商用其他出稼等ノ者迄遺漏ナク呼返シ家住致サセ檢査呼集ニ不都合ナキヲ緊要トス

第四條 徵兵ノ身幹ハ五尺以上ノ定則ト雖モ土地人種ニ由リ定尺ニ當タル者十カ一ヲ得ル能ハス就中歩兵ノ定員ハ他兵ニ十倍ス故ニ歩兵ニ限リ四尺九寸以上ヲ採用スルモ時宜ニ因ルヘシ

第五條 本年ノ徵兵抽籤ノ列ニ入り常備役志願ニテ補充或ハ落籤等ヲ患フル者ハ其親或ハ兄叔伯總ヘテ戶主タル者會得ニテ戶長証印ノ上ハ抽籤以前ニ常備番号以內ノ籤ヲ抽カシム

第六條 本年ノ徵兵各自抽籤ノ上便宜ヲ以籤番號ノ互換ヲ願出ツル者ハ同府縣内ノ親族間ヲ限リ互ノ親或ハ兄叔伯總ヘテ戶主タル者會得ニテ雙方戶長証印ノ上ハ詮議ニ及フヘシ最徵兵署解散ノ後ハ此限ニアラス

第七條 本令第五章中ニ示シタル徵兵ノ抽籤ハ一府縣内合格ノ丁壯ヲ再ヒ徵兵署ニ集合セハ或ハ滞在等ノ費用少カラサルヲ以検査

合格ノ者ハ同時讀文算術ヲ試ミ歸家ヲ許シ抽籤ハ各丁總代議員ヲ以代抽セシメ其番號ニ應ジ割符ヲ其議員ニ附シ各丁ニ傳與セシムルモ時宜ニ由ルヘシ

但時宜ニ由リ代抽傳與ニ決スル時ト雖モ自抽籤ヲ欲スル者ハ其望ミニ任スヘシ

第八條 本令第六章第十五條ニ示シタル代人料ヲ納レ免役願出ツルハ検査ノ上合格ノ者耳償金ヲ出サシム其金額ノ如キハ兵卒三ケ年間給與スル衣食物器ノ雜費ヲ計算スル者ニシテ例外ノ法トナス是故ニ代人料ヲ納ムル者幾人アルモ其府縣徵兵ノ定員ヲ減セス但免役ヲ願フ者多クシテ徵募スヘキ人員ニ不足ヲ生スルモハ臨時ノ詮議ニ及フヘシ

第九條 本令第三章中第六第七第八及ヒ第十一條ニ相當スル者ト

雖兵役志願ノ者ハ服役中一切苦情申立サル後証ヲ以テ其親或ハ兄叔伯凡テ戸主タル者本人戸主ナレハ其親族ノ願書ニ區長戸長與書證印ノ上管應ヲ經テ徵兵使ヘ申立タルニ於テハ之ヲ採用スヘシ

但シ年齡二十一歳以上二十四歳以下ニシテ兵役ヲ志願スル者モ亦本文ノ例ニ準ス

(本條ハ十年陸軍省達甲第七號ヲ以改正舊文ハ除之)

第十條 本令第六章第一條ニ照準シ常備新兵ヲ入營セシムル時ハ府縣内最寄ヲ分チ一郡或ハ二郡トナシ戸長之ヲ引續メ入營セシムヘシ尤豫メ到着日限ヲ其鎮台或ハ營所ヘ報知シ到着ノ上ハ即刻届出スヘシ

但到着日限ヲ期シ難キ島嶼等ノ如キハ臨機ノ扱ヒヲナスコ必シモ此限ニアラス

第十一條 常備新兵入營ノ期ニ至リ病氣又ハ他ノ事故ニテ期限通り入營シ難キ者醫ハ師ノ診斷書或ハ事故ニ關スル者ノ證書ニ區長及ヒ戸長ノ與書証印ヲ以管應ヲ經テ其鎮台ヘ届出ツヘシ快氣或ハ其事故既濟ノ上ハ即日從前ノ手順ヲ以届出ヘキハ勿論入營期限初日ヨリ算シ往キ三十日ニ至リ入營シ難キ者ハ前件ノ通届出テ其翌日ヨリ後三十日ニ至リ尙入營シ難ク前件同様届出ツル者ハ翌年徵兵ニ廻スヘシ

○八年陸軍省達第四百十三號ヲ以徵兵令參考第十一條ヘ追加

翌年ニ廻スヘキ徵兵ハ鎮台ニ於テ其人營ヲ府縣毎ニ區別シ入營延期翌年回シ名簿ヲ製シ各自ノ事故ヲ摘載シ引揚ノ割符ト共ニ本省ニ指出シ其原簿ヲ刪ル可シ府縣ニ於テハ其年末ニ到リ徵兵連名簿ニ準シ入營延期翌年廻シ名簿ヲ製シ徵兵諸名簿ト同時ニ

陸軍省へ指出シ置キ徴兵検査期限一到ハ検査場へ召集スルコト
本年相當ノ徴兵ト異ナルコトナシ最モ補充ヨリ常備ニ操上ケ入營
延期スル者ノ扱モ亦之ニ同シ

第十二條 常備親兵入營以前逃亡或ハ他ノ犯罪等ノ者ハ素ヨリ軍
律ヲ以處置セサルベシ若搜索又ハ裁判中ノ者ハ前條入營延期ノ者
同様其時々届出ツベシ

第十三條 常備新兵入營ノ期ニ臨ミ父母ノ重病或ハ死没等止ムコト
得サル事故出来入營延期ヲ願フ者ハ其親或ハ親族ノ者ヨリ管廳ノ
奥書証印ヲ以テ其鎮台へ願出ツルニ於テハ本令第六章第七條ニ準
シ詮議ニ及フベシ

第十四條 本年常備補充ノ命ヲ蒙リ入營以前若過テ陸軍ノ番號割
符ヲ(誤毀遺失スルキハ其趣速ニ管廳へ届出管廳ニ於テ篤ト事由ヲ

取札シ全ク過失ニ係ルハ直ニ所管鎮臺へ移文シ新製ヲ請フベシ尤
途中或ハ營所外滞在中ニ在ルキハ附添區長或ハ戸長ニ於テ其事由
ヲ詳ニシ直ニ鎮台或ハ其營所へ上文ノ手續ヲナスヘシ

(本條(ヨリ以下九年十一月)
(廿一日改正舊文ハ除之)

第十五條 本令第六章第七條ニ準シ常備服役中ノ者若シ非常ノ事
故ニテ止ムコト得サル片歸省ヲ願フモノハ詮議ニ及フヘシト雖モ入
營後六ヶ月未滿成業ニ至ラス或ハ實地演習又ハ臨時觀兵ノ舉アル
片ハ此限ニ非ス

第十六條 補充兵ハ常備ノ補欠兵タルヲ以何時ニテモ入營ノ覺悟
アルヘシ固ヨリ自己ノ管内ヲ出ツルヲ禁スト雖モ止ムコト得サル事
故出来管地ヲ出テテ欲スルキハ其事實並ヒニ往ク所ノ國郡村
名及ヒ往返日數等ヲ記シ置キ十日以内ハ其管廳ニ於テ許可スヘシ

第十七條 本令第六章第十三條ニ示シタル毎年十二月二十五日限
 リ本省へ送達ノ徵兵連名簿ハ府縣款名ノ野紙ニ第一式ノ如ク認メ
 年齢計算ハ第二式表面ニ揭示シタル(如ク徵募ニ應スヘキ年ノ一月
 ニ至リ二十一歳未満廿歳以上ニ相當スル者ヲ其生年ニ遡リ取調フ
 ヘシ)最免役ニ適スル者ハ第三式ノ野紙ニ認メ用紙ハ美濃或ハ薄葉
 ニテモ府縣ノ便宜ニ應ス總テ認メ方ハ一大區或ハ一郡ニ括リ合計
 ナ舉ケ遂ニ一府縣ニ總計シ連名順序ハ他村町ノ者ト混雜セサルヲ
 要ス假令ハ甲村ノ成丁ヲ書シ終ルノ後乙村へ移スノ類ニシテ一村
 毎ニ餘白ヲ存スルニ及ハス尙朱字ヲ以雛形野紙ニ認メ方ヲ示ス
 (本條ヨリ以下迄九年十一月改正舊文ハ除ク)
 第一式 徵兵連名簿雛形
 第一大區或ハ何郡

新名何男或ハ兄叔伯弟甥又ハ厄介
 族職業 誕生年月日 何 某
 全 全 全
 以下准之
 合計幾人
 第二式 年齢計算表
 但シ此表明治十年ヲ以目標トス

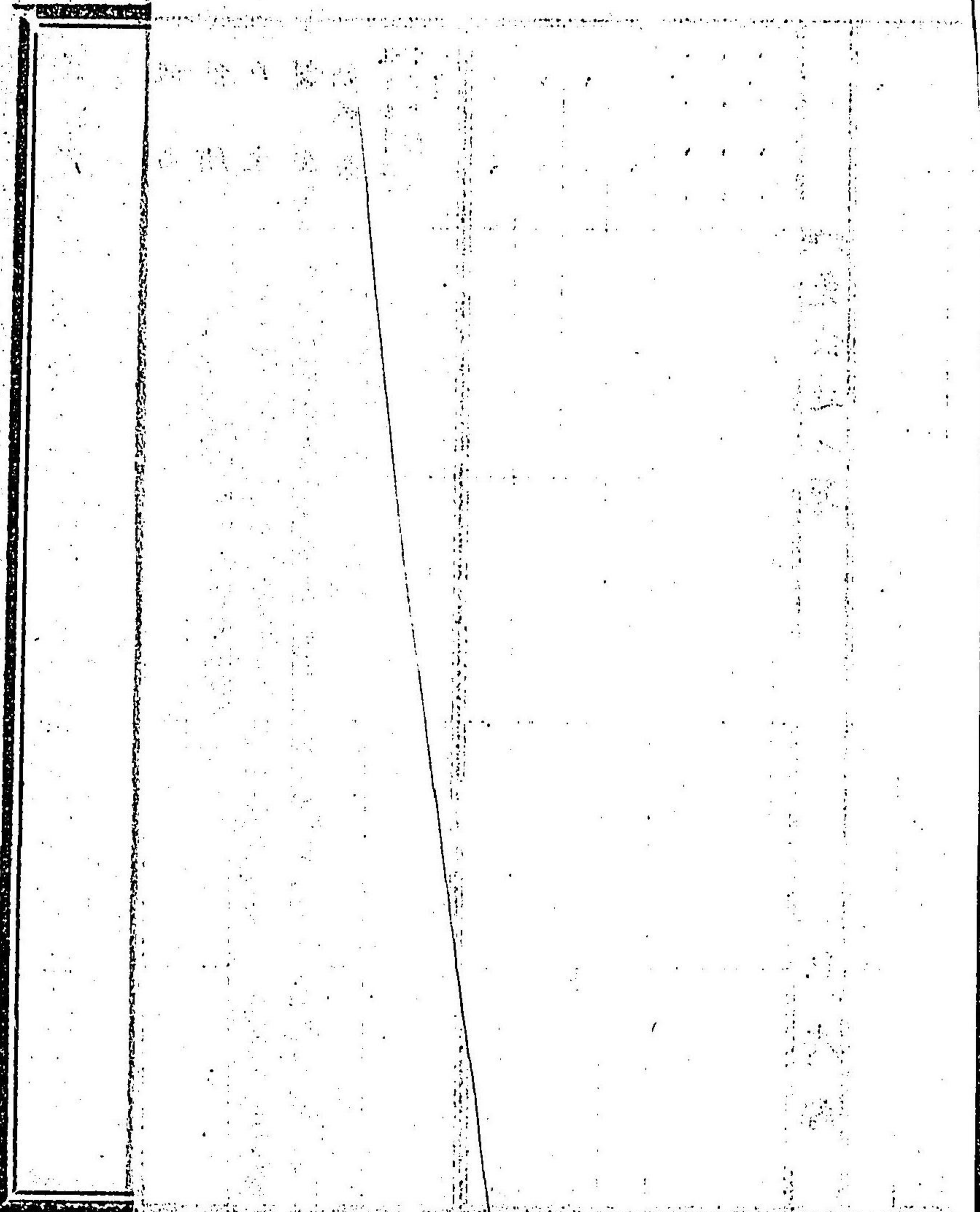
已全 年四	年 辰 三 政 安												誕 生 ノ 年 月	明 治 九 年 一 月	明 治 十 年 一 月 至 リ 年 月 計 算							
	二	正	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二				十	九	十	十	十	十	十
年	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
者之載記簿名連兵徵																						
者キハス募徵年十治明																						

本表ハ九年八月陸軍省達第百三十号ヲ以テ改正ノ分回表ハ除之
 (全連文但書安政三丙辰年二月十六日ヨリ同月末日迄出生ノ者未
 明治十年徵募ニ令應候儀ト可相心得候事)

第十七條 本令第六章第十三條ニ示シタル毎年十二月二十五日限
 リ本省へ送達ノ徴兵連名簿ハ府縣款名ノ罫紙ニ第一式ノ如ク認メ
 年齢計算ハ第二式表面ニ揭示シタル(如ク徵募ニ應スヘキ年ノ一月
 ニ至リ二十一歳未満廿歳以上ニ相當スル者ヲ其生年ニ遡リ取調フ
 ヘク)最免役ニ適スル者ハ第三式ノ罫紙ニ認メ用紙ハ美濃或ハ薄葉
 ニテモ府縣ノ便宜ニ應ス總テ認メ方ハ一大區或ハ一郡ニ括リ合計
 ナ舉ケ送ク一府縣ニ總計シ連名順序ハ他村町ノ者ト混雜セサルヲ
 要ス假令ハ甲村ノ成丁ヲ書シ終ルノ後乙村へ移スノ類ニシテ一村
 毎ニ餘白ヲ存スルニ及ハス尙朱字ヲ以雛形罫紙ニ認メ方ヲ示ス
 (本條ヨリ以下迄九年十
 一月改正舊文ハ除ク)

第一式 徴兵連名簿雛形

第一大區或ハ何郡



第十八條 本令第三章第一條ニ當タル者ハ府縣毎ニ豫丁壯ノ身幹
ヲ尺度シ四尺九尺未滿ノ者ハ免役簿ニ載セ第二條ニ當タル者ハ其
取捨分明ナラサルヲ以顯然タル矮小眇蹇臃腫或ハ宿痾不具等ノ者
ノミ免役簿ニ載セ右孰モ徵集スヘカラス

但宿痾ノ者ト雖モ判然家業等營ニ難キ者ニ非サレハ此限ニ非ス
第十九條 本令同章第三條ノ官省使廳府縣ニ奉職スル者ト雖顯然
タル等外四等迄ニ非サレハ假令給仕用使或ハ事務繁劇ニ付キ一時
雇入ノ者ト雖モ總テ免役ニ屬ス可カラヌ尤御用掛御雇等ノ名義ニ
テモ餘人ヲ以換フヘカラサル事務ヲ奉スル者等ノ如キハ特ニ正院
ニ上仰シテ裁決ヲ乞フヘシ

第二十條 本令同章第五條ニ示シタル文部ノ生徒ハ外國語學英語
佛語
獨語ヲ學ヒ三ケ年間ノ教科ヲ卒業シタル以上並ニ專門學修業ノ者
其他

又文部省直轄師範學校ニ入り修業一期六ケ
月ノ課程ヲ卒リ其証書ヲ
得タル以上ノ生徒及ヒ全期卒業ノ証書ヲ得タル者並ニ該學校ニ於
テ其試験ヲ經上第ノ証書ヲ得タル者及ヒ文部省囑任學校長教員ハ
免役ニ屬スヘキハ勿論省使廳府縣其他公私學校ノ生徒ハ都テ文部
ノ生徒ニ比較シ外國語學三ケ年間ノ教科ヲ卒業シタル生徒ニ相當
ノ者ハ免役ニ屬スヘシ因テ本令第六章第十三條ノ例ヲ踐シ徵兵連
名簿調ノ時各自証書ヲ出サシムヘシ

但即今文部ノ學則ヲ以比シ難キ土地柄或ハ國學其他學則未定ノ
馬醫術等ノ如キ判然分界ヲ付ケ難キ者ハ總テ徵兵連名簿ニ載セ
徵兵署開設ノ時各自其修業履歷並ニ教師ノ証書ヲ以テ申立ツヘ
シ

(本條ハ九年四月陸軍省達第六
十六号ヲ以改正舊文ハ除之)

第二十一條 諸省使雇入外國人ニ附属シ官費ヲ以技藝傳習中ノ者ハ第廿條ノ例ニ準シ免役ニ屬スヘシ(勸農局牧羊生徒ノ内適齡ノ者ハ免役ノ旨十一年十一月全局ヨリ照會)

第廿二條 本令第三章第七條ニ示シタル嫡子嫡孫ニ當タリタル者ト雖ト兄弟アリ祖父或ハ其父未タ嗣子或ハ承祖ノ孫ト認メサルハ兵役ニ就クヘシ

第廿三條 二三男ニタ子ナルトキハ檢査ノ上合格ノ者ヲ採用ス若シ二人共ニ合格スルハ抽籤以前親ノ望ミニ任セ一人ヲ免ズヘシ
第廿四條 兄弟ノ中陸海軍在役ノ者アレハ本人免役ハ勿論ナレトモ其兄弟若壯兵ニテ在役スルハ之ヲ免サス

第廿五條 本令第三章常備兵免役條則ハ檢査前ノ規則ニノ入營後ノ法ニ非ス是故ニ服役中ハ其ケ條ニ該ル事故出來ト雖ト一切之

本款退
加第四
十條ヲ
見合セ

ヲ許サス然レトモ現今兄或ハ家繼タルヘキ者死シ又ハ不療ノ疾ニ罹リ或ハ兩親又ハ祖父母老羸且貧窮ニシテ他ニ依ルヘキ子ナク或ハ幼稚ニシテ在役中ノ者ヲ要スルニ非サレハ活計ノ路ナキ等止ムヲ得サル故障出來ノ者ハ戸長並ニ親族ノ証書ニ管廳ノ奥書証印ヲ以テ鎮臺ヘ願出ツルニ於テハ詮議ノ上現役ヲ免スト雖ト入營後六ヶ月ヲ經生兵卒業ノ者ハ其服役年限中ハ後備軍ノ籍ニ編入スヘシ
第廿六條 本年徵兵連名簿進達期限乃每年十二月廿五日ヨリ翌年四月二十日迄ノ間ハ養子分家或ハ嗣子相續人等ノ出願ハ免役ノ爲計僞ニ出ツルニ嫌アルヲ以右日限内ハ格別精密ニ取糾シ事實明瞭止ムヲ得サル者ノ外ハ濫リニ許可相成ラス

但シ檢査ノ節病氣事故等ニテ不忝又ハ入營延期ニテ翌年ノ徵兵ニ迴スヘキ者ハ則其時ヨリ翌年入營期限迄ニ養子分家ハ勿論(官

本款退
加第四
十九條
ヲ見合

吏或ハ第廿條ノ例ニ據リ免役ニ適當スル者ト雖兵役ニ於テハ一切之ヲ免サス尤祖父死シ其孫嗣子トナリ又ハ戶主死シ其後繼タル者ハ此限ニアラス

(但書以下九年十一月二十一日改正舊文ハ除之)

第廿七條 本年徵兵連名簿記載ニ當ル者ノ内他府縣へ寄留ノ者ハ本令第六章第十三條ニ照準シ其處置ニ及フヘシ然レモ寄留地ニ於テ徵募ニ就カント欲スル者ハ凡テ戶主タル者ヨリ其筋ヲ經テ本貫廳ニ願出テ許可ヲ得テ必ス其年ノ九月一日迄ニ右許可ノ寫並寄留地ニ於テ在役中身元引受人ノ証書相添更ニ本人ヨリ寄留地區戶長ノ手ヲ經テ其管廳へ願出ツヘシ尤雙方管廳ニ於テハ篤ト取糺ノ上相違ナキハ聞届ケ本簿ノ末ニ附シ其事由ヲ詳細ニ記スヘシ又其戶主タル者他府縣へ寄留スルキ其子弟厄介タル者ハ本令同章第十

四條ニ準スヘシト雖モ其本貫ヨリモ豫メ有無ヲ取糺シ本簿ノ末ニ附シ其事由ヲ記スヘシ

但北海道ノ内未タ徵兵ヲ行ハサル土地ニ單身寄留スル者ハ其本貫ニ歸リ徵募ニ應シ全戶寄留スル者ハ免役ニ屬スヘシ又同地ヨリ各府縣へ單身寄留スル者ハ免役ニ屬シ全戶寄留スル者ハ府縣一般ノ人民ト同ク兵役ヲ帶ハシムヘシ(本條ハ十年一月甲第七號ヲ以改正舊文ハ除之)
第廿八條 本令第六章第十二條ニ示シタル全國ノ男兒十七歲國民軍ニ入ラシムヘキハ其本年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ滿十七歲ト成ル者ヲ前年十六歲ノ十二月取調へ成丁簿ニ配シ府縣廳ニ備へ置キ而國民軍人員表雛形ニ準シ十七歲ノ者幾人十八歲ノ者幾人ト順次四十歲ニ及ホシ之ヲ一大區又ハ一郡ニ括リ而又之ヲ一府縣ニ合セ翌年一月中ニ陸軍省へ差出スヘシ尤成丁簿ハ所用ノ節需

第廿九條 國民軍名簿記載ノ内洋行修業或ハ他府縣へ寄留等現今不在ノ者ハ各自其由並ヒニ出立年月等簿中備考へ詳細ニ書載セ又他府縣ヨリ寄留ノ者ハ本貫並ヒニ移住ノ歲月等右同様備考ニ記シ本簿ノ末ニ他府縣ヨリ寄留ノ部ト題シ一纏メニ記載スヘシ

第三十條 陸軍ノ兵籍ニ入リタル者ト雖在郷中ハ其族屬ニ隨ヒ取扱フヘキハ固ヨリナレト死没轉居處刑及ヒ脱走總ヘテ身上ニ關スル事故アレハ常備兵ノ歸郷中ノ如キハ其時々後備軍ノ如キハ月末

毎ニ其筋ヲ經テ所管ノ鎮台へ届出スヘシ

第三十一條 後備軍召集ノ旅費ハ各自住居ノ地ヨリ營所迄ノ里程ヲ算シ徵兵入費概則ニ照準シ一時其府縣ニテ立替へ渡シ追テ明細決算表ヲ以テ其鎮台へ申出ツヘシ

第三十二條 本令及ヒ此編中ニ於テ管内ヲ出入スル云々等ノ管内ハ各自管轄セラレタル府縣内ト心得ヘシ就キテハ他ノ府縣ト接シタル邊界ニ住居シタル者其管外ニ出ツルヲ禁スルルハ支障最多カルヘシ是故ニ此等ノ者ハ他管ト雖ヒ一泊途程ノ所ハ自己管内ト見做シ往來スルモ妨ケナシ

○追加 十年一月陸軍省達
甲第七号

第三十三條 附籍主ハ尋常戶主ト其權利同キヲ以テ本令第三章第六條ニ準シ免役ニ屬スヘシ然レトモ其嗣子並ニ同籍中ニ在テ徵兵ニ

相當スル者ハ凡テ徵募ニ應スヘシ

第三十四條 本令第三章第八條ニ示シタル獨孫ハ祖父戸主ニシテ其子猶嗣子ノ地位ニ在ル者ノ獨子ニテ家ノ血統其一人ニ存スル者ヲ免役ト定メタル儀ニシテ他ヨリ貫ヒ受タル孫又ハ他家へ縁付キタル兄弟姉妹アル者ハ假令獨孫ニ相當スル者ト雖モ凡テ徵募ニ應ムヘシ

第三十五條 戸主タル者實子ナク或ハ實子不具廢疾等ニテ家事ヲ經營シ難ク叔伯弟甥等ヲ以テ相續人ト定メタル者ハ本令第三章第七條ニ準シ免役ニ屬スヘシ

第三十六條 本令第三章第十條ノ父兄ニ代リ家ヲ治ル者ハ父及ビ兄或ハ兄存在スレハ廢疾又ハ失踪後三十六ヶ月以上ヲ經過シ徵兵相當ノ者ヲ要セサレハ顯然家事ヲ經營シ難キ者タルヘシ尤戸主幼

弱ナルヨリ同戸籍中ノ叔伯甥等ノ從來家事ヲ擔理スル者ニシテ要セサレハ忽チ活計ノ路ヲ失スル者ハ同區或ハ隣區ノ徵兵三人ノ戸主タル者ニ其實事ヲ證セシメ其管應ニ願出ルニ於テハ同條ニ準シ之ヲ免スヘシ

但父兄失踪後未タ三十六ヶ月ヲ經過セサル者ト雖モ其管應ニ於テ己ムヲ得サル事實明瞭ニシテ詐偽ニ嫌ナキ者ト見認ルルハ陸軍省へ具狀シ許可ヲ乞フヘシ

第三十七條 常備兵在役中死没又ハ公務中ニ傷疾ヲ受ケ或ハ陸海軍服役ニ起因シタル疾病等ノ故ヲ以テ退役セシ者ノ服役年限内ニ在テ其兄弟タル者徵兵ニ相當スルルハ本令第三章第十一條ニ準シ免役ニ屬スヘシ

第三十八條 本令第五章第五條ニ準シ一府縣内常備補充ノ徵員ニ

剩餘アルキハ之ヲ落籤トナスヲ例トスト雖モ若シ他府縣ノ徵員ニ不足アルキハ其落籤番號順序ニ之ヲ採用スルハ勿論タルヲ以テ本年四月二十日迄ノ間養子分家其他嗣子相續人ノ出願又ハ出稼等ノ者ハ差止置クヘシ尤同日迄ニ採用ノ命ナキキハ即兵丁ノ列ヲ免シタル者ト心得ヘシ

第三十九條 本令第四章第三條ニ當リ體格檢査ノ上不合格ノ者ハ即除役ニ屬スヘキ者ト雖モ若シ其年一般ノ徵員寡少ニシテ徵募定額不足シ軍隊編成ニ支障アルキハ再檢査ヲ遂ケ之ヲ充實セシムヘシアルヘシ

第四十條 本年常備缺員ヲ補フ爲メ補充兵ノ入營ヲ要スルキハ其鎮台ニ於テ本年常備兵ノ缺員ニ應ジ一軍管內府縣ヲ平均シ補充番號順序ニ入營セシメ名簿相添ヘ陸軍省ヘ届出ツヘシ

但補充兵服役中常備志願ノ者ハ其親或ハ兄叔伯凡テ戸主タル者會得ニテ區長戸長證印ノ上管應ヲ經テ其鎮台ヘ願出ツルニ於テハ番号ノ順序ニ抱ハラヌ本文同時ニ之ヲ入營セシムヘシ

第四十一條 前條ノ如ク鎮台ニ於テ補充兵ヲ召集スルニ若シ甲軍管內ノ補充ヲ以常備缺員ヲ補フニ足ラサルキハ之ニ近接セル乙軍管ノ補充ヲ以テシ乙亦足ラサルキハ丙ニ及ホシ交互補缺シ定員ヲ充實スヘキヲ以テ之ヲ陸軍省ヘ申立ツヘシ

第四十二條 常備新兵ハ本令第六章第一條ニ準シ四月二十日ヨリ五月一日迄ニ入營セシムルヲ以テ各自入營ノ時日ニ不同アリト雖モ服役年期ノ計算ハ其入營シケル年ノ四月二十日ヨリ之ヲ起算スヘシ

第四十三條 常備軍滿期ニシテ第一後備軍ニ入ル者ハ四月二十日

五月一日迄ニ出營セシムヘシ尤服役年期ノ計算ハ前條ノ例ニ
ナリ

第四十四條 本令第六章第四條ニ準シ常備軍服役在營中其身元轉
居スルキハ其父兄或ハ親族ノ者ヨリ直ニ本人ヘ通報シ本人ヨリ自
己所屬ノ下士ヘ届出ルニ於テハ下士ヨリ其筋ヲ經テ本台ヘ届出テ
本台ヨリ定規ノ通り陸軍省ヘ報告スヘシ

但補充兵服役中其身元轉居スルキハ本令第六章第九條中第一式
ノ例ニ準シ届出ツヘシ

第四十五條 徵兵適齡ノ者ハ本令第六章第十三條ニ準シ毎年各府
縣ニ於テ調査シ粗漏ナキハ勿論ト雖モ若シ戸籍上生年月日ノ記載
誤リ又ハ銘々ヨリ届出サル者アリテ他日發露スルトキハ其失錯セ
シ者ハ管廳ニ於テ相當處分シ脱漏セシ丁壯ハ其年進達スヘキ徵兵

名簿ノ冊尾ヘ事由ヲ詳記シ差出タヌヘシ

第四十六條 毎年徵兵簿進達後徵兵使巡行迄ニ死没犯罪或ハ第二
十六條ニ準シ己ムヲ得サル養子分家又ハ嗣子相續人等ノ出願ヲ管
轄廳ニ於テ許可セシ者其他名簿上ニ異動ヲ生スルキハ凡テ該廳ニ
取纏メ置キ同使巡回ノ節届出ツヘシ

第四十七條 徵兵ノ身幹五尺未滿四尺九寸以上ノ者ト雖モ第四條
ノ例ニ準シ之ヲ採用スルコアルヲ以テ尋常適寸ノ者ト同様徵兵連
名簿ヘ記載シ檢査呼集ニ應セシムヘシ

但五尺未滿四尺九寸以上ノ者檢査呼出ノ時ニ當リ出席セサル者
又ハ入營延期ノ者ノ扱ハ尋常翌年廻徵兵ト異ナルコナシ尤翌年
ノ徵兵ハ適寸ノ者ニテ充實シ五尺未滿ノ者ヲ要スルコナキハ
之ヲ解散セシムヘシ

第四十八條 第二十五條ニ當リ父兄等疾病ノ故ヲ以テ免役願出ル者ハ其願書ニ左ノ第一式ノ條件ヲ明瞭ニ記載シタル最寄地方醫師ノ診斷書及ヒ第二式ノ家族書ヲ添ヘ同區或ハ隣區ノ徵兵三人ノ戶主タル者ニ其事實ヲ證セシメ區長戶長與書證印ノ上其管應ニ差出シ管應先ツ之ヲ駐在官ニ移シ駐存官ハ區長姓名ノ次へ署名押印シ然ル後管應ヨリ更ニ所管鎮台へ申立ツル上ハ其鎮台病院東京ハ本病院醫官ニ於テ診斷書ノ當否ヲ判定シ其趣ヲ別紙ニ記載調印セシメタル上願書ト共ニ陸軍省へ差出シ何分ノ指令ニ應スヘシ

第一式地方醫師診斷書雛形

何府第大區何小區何町住

姓

名 年齡何年何月

一體質

- 一病名
- 一原因
- 一症候
- 一經過
- 一處方
- 一豫後

右之通相違無御座候也

何府第大區何小區何町何番地住

醫師 姓 名 印

年号月日

第二式家族書雛形

何府第大區何小區何町何番地住

戶主 姓 名

年齡何年何ヶ月

父	某	、	、	、	、	、	、	、	、
母	某	、	、	、	、	、	、	、	、
祖父	某	、	、	、	、	、	、	、	、
祖母	某	、	、	、	、	、	、	、	、
長男	某	、	、	、	、	、	、	、	、
次男	某	、	、	、	、	、	、	、	、
長女	某	、	、	、	、	、	、	、	、

徵兵在役

次女 某

右之通相違無御座候也

府何大區何小區何村

戶長 姓名印

區長 姓名印

第四十九條 第廿六條但書ニ示シタル翌年廻シ徵兵ノ中養子分家
 其他嗣子相續人等ノ出願ハ故障ナク何時ニテモ徵募ニ應スヘキ後
 證ヲ以テ區長戶長與書證印ノ上管廳へ願出ルキハ該廳ニ於テ聞届
 ケ置キ例年徵兵名簿進達ノ節其事由ヲ記載シ陸軍省へ差出タスヘ
 シ

第五十條 前條翌年廻徵兵ノ中祖父死シ其孫嗣子トナリ又ハ戶主
 死シ其後繼タル者或ハ己ムヲ得サル事故出來シ徵兵タル者ヲ要セ

カレハ忽チ一家ノ生計ニ關係スル者ノ如キ事情餘儀ナキ者ハ同區
 或ハ隣區徵兵三人ノ戶主タル者ニ其事實ヲ證セシメ區長戶長與書
 證印ノ上管廳ヲ經テ陸軍省ヘ願出ルニ於テハ詮議ニ及フヘシ
 第五十一條 常備並補充服役中養子約束ノミヲ爲サント欲スル者
 ハ養家ノ事故等ニテ一切苦情申立サル後證ヲ以テ其戶主タル者ヨ
 リ區長戶長與書證印ノ上願出ルキハ其管廳ニ於テ聞届ケ直チニ所
 管鎮台ヘ届出ツヘシ
 第五十二條 毎年徵募スル常備補充ノ人員ハ本令附録中ニ揭示ス
 ト雖モ軍隊編成ノ都合ニ由リ若干ノ人員ヲ減省シ又ハ死没除隊其
 他近衛教導團等ニ拔擢スル者ノ闕員ヲ補フ爲メ之ヲ增募スルハ時
 宜ニ由ルヘシ

陸軍省甲第七號達○徵兵令參考別紙之通追加並改正候條此旨相
 達候事但シ徵兵之儀ニ付是迄テ伺出指令及ヒ候中別紙箇條ニ抵

釐ノ廉ハ廢棄ト
 可相心得事

○第四款 內務 達 九年三月廿七日
 省 乙第四十一号

明治八年乙第六十八号ヲ以テ巡查召募規則等相達置候處從前地
 方ニ於テ巡查申付候者ト雖モ徵兵相當ノ者ハ右規則ニ照シ候儀ト
 可相心得此旨更ニ相達候事

參考 八年乙第六十八号
 巡查召募規則抄出

第一條 召募合格ノ者

一年齡二十歳ヨリ四十五歳マテ

但シ徵兵相當ノ者ハ之ヲ除ク

○埼玉縣伺 九年十二
 月七日

本年御省乙第四十一号ヲ以テ從前地方ニ於テ巡查申付候者ト雖
 モ徵兵相當ノ者ハ右規則ニ照シ候儀ト可相心得旨府縣ヘ御達相

成候處警視廳巡查モ同様呼出シ調査致シ可然哉又ハ免役ニ取計可然哉相伺候也

内務省 九年十二月廿一日

書面ノ趣警視廳ニ於テ本年二月廿五日以前召募ノ巡查ニ限り徵兵免役ト可相心得事

○第五款 陸軍 明治十年二月十四日 省 達 送第五百三十六号

各兵下士ノ服役期限アル者並教導團生徒近衛兵及再役兵等ノ兄弟ニシテ徵兵相當スル者検査ノ上合格ノ者ハ其抽籤番号ヲ別ニシ補充兵或ハ落籤ノ者ニ次カシメ一軍管内常備徵員不足ヲ生スルトキハ先ツ補充兵並落籤ノ者ヲ繰上ケ猶不足ニ至テ此員ヲシテ充實セシムヘク尤該年ノ徵員不足セサルニ於テハ落籤ノ者解除ノ期限ト同シク解除可致儀ト可相心得此旨相達候事

○茨城縣伺 十一年十月

第一條 常備兵服役ニシテ來明治十二年四月滿期第一後備軍へ編入可相成者ノ内容年西南之役ニ於テ戰死或ハ病死セシ其弟タル者ハ明年徵兵免役ニテ可然哉

第二條 常備兵ニシテ昨十年滿期第一後備軍へ編入可致ノ際同年六月甲第十九號御達ニ依リ服役延期中同役ニ於テ死没セシ其弟タル者ハ前件同様ニテ可然哉

第三條 第一二後備軍服役中臨時召集ニ應シ同役ニ於テ前同様死亡セシ其弟タル者ハ如何取計可然哉右之件々相伺候也

陸軍 指令 省

伺之趣第一第二第三條ニ該ル者ノ兄弟ハ都テ來十二年徵募ニ令應候儀ト可相心得事

○第六款 陸軍 十年九月十八日
省 達 甲第二十八號

常備並補充兵服役中分家或ハ家名相續等願出ノ者其趣意兵役免除
ヲ願フニ非ス戸主ノ名義ヲ得ルニ止ル者ハ徵兵令參考第五十一條
ニ準シ取扱不苦候此旨相達候事

○第七款 太政 八年九月第
官 御達 百六十九號

各府縣ニ於テ毎歲徵兵連名簿同免役簿並ニ成丁簿ノ調製等總テ徵
兵下調ニ係ル諸費本年七月以降ハ各廳定額常費ノ内ヲ以仕拂候儀
ト可心得事

○大藏 九年三月二十九
省 達 日乙第三十三號

徵兵入營以前ノ經費從前陸軍省ヨリ支給候分本年七月以降ハ各府
縣額外常費トシテ當省ヨリ相渡候條此旨相達候事
但徵兵下調諸費ハ八年九月第百六十九號公達ノ通可心得事

○大藏 九年十二月廿七
省 達 日乙第百九號

徵兵入營以前ノ經費交付方ノ儀ニ付本年三月乙第三十三號ヲ以相達
候ニ付テハ同年二月陸軍省第十八號達シ徵兵入費概則改正更ニ別冊
ノ通相定候條自今右ニ照準可取計候尤受取方ノ儀ハ同年八月乙第六
十九號內務大藏兩省達ノ通可心得此旨相達候事

但本年七月以降補充兵入營以前入費既ニ陸軍省達徵兵入費概則
ニ照シ仕拂濟ノ分ハ其儘据置經費勘定帳ニ編入可差出事
徵兵入費概則

第一條 入營ノ節徵兵ニ附添區戸長等ノ旅費ハ一般旅費定則ヲ以
旅費等級五等ヲ給スヘシ

但徵兵議員並ニ徵兵ニ附添區戸長檢査場及抽籤場等ニ往復スル
旅費ハ官ヨリ給セサルヘシ
(九年太政官第六十四號達旅費定則五
等並旅行一圓五十錢晝夜急行一圓

九十錢。滯留三十錢。府縣管内）
旅費八十錢。同滯留三十錢。

第二條 徵兵ハ各自其住所ヨリ検査場及抽籤場等へ往復ノ旅費十里詰日當金二十四錢ヲ給シ若シ同地ニ滞在セシムルキハ日當金十二錢ヨリ多カテサル金額ヲ適宜支給スヘシ

但近方片道三里未滿ハ旅費ヲ不給三里以上六里未滿ハ日當ノ半數六里以上十一里未滿ハ一日ノ日當ヲ給ス 三里未滿ト雖モ一泊セシムルキハ日當三分ノ廿六 十里以外ノ端里數ハ一里以上六里未滿ハ日當ノ半數六錢ヲ給ス 總テ一里未滿ハ勿拾ツヘシ

第三條 検査場ヨリ直ニ抽籤場ニ至ル徵兵ハ甲乙丙ノ里程ヲ通計シ第二條ノ旅費ヲ給スヘシ

第四條 抽籤又ハ検査場等ニ於テ自己ノ情實ヲ申立テ免除ニ屬スル者ノ旅費並ニ滯在日當ハ給セス

第五條 徵兵其府縣管外ニ在ル營所へ入營ノ旅費ハ十里詰日當金四十錢ヲ給スヘシ尤近方三里以上六里未滿並滯在日當及管内ノ營所ニ至ル旅費ハ第二條ニ準スヘシ

第六條 備醫ハ其術業ノ優劣ヲ以テ四等ニ分チ第一等一日金壹圓第二等七十五錢第三等金五十錢第四等金三十錢ヲ給シ若シ軍醫ニ隨ヒ他郷ニ出ルキハ第一條ニ準シ旅費ヲ給スヘシ

第七條 筆生ハ記録ノ開劇ニ因テ一日金三十錢ヨリ多カテサルノ給料ヲ以テ適宜支給シ都合ニ因リ甲場ヨリ乙場ニ要スルキハ第一條ニ準シ旅費ヲ給スヘシ

第八條 用使ハ徵兵署ニ二人検査場ニ一人ヲ要ス尤檢丁三百人以上ハ一人ヲ増スヘシ右雇料トシテ一日金十二錢五厘ヨリ多カテサルノ金員ヲ適宜給スヘシ

ノ上ハ其府縣ニ預リ若翌年ニ至リ自然毀傷アルキハ修復ヲ加フヘシ
 若又一時ノ假借ニテ辨給スルキハ相當ノ借料ヲ給スヘシ
 第十一條 徵兵署並ニ各所檢査場ニ於テ徵兵使或ハ副使ヨリ定期外ノ物品ヲ要スルキハ其旨明細表考ニ記載スヘシ
 第十二條 徵兵入營及檢査抽籤場途中川留雪支病氣等ニテ延滞ノ節ハ其所戶長ノ証書及醫師ノ診斷書アルモノハ増日數ノ分滯留日當ヲ給ス且疾病足痛等ニテ歩行難相成モノハ醫師ノ診斷書及其他通運會社ノ受取證書ヲ添テ申出ルキハ車駕賃ヲ給スヘシ尤藥種料醫師ノ謝等ハ自辨タルヘシ

第十三條 右入費勘定仕上ハ該年度經費勘定帳額外常費徵兵費ノ一大科目ヲ設小科目ハ本年十月乙第九拾号當省達ニ照準シ勘定帳明細表共明治八年八月第百五十號公達之通相心得調成スヘシ(第百五十號第九十號大藏省達共金穀出納勘定帳ノ件ニ付コ、ニ零ス)
 第十四條 前條ノ通定ムルト雖モ各廳ノ便宜ニヨリ此概則ニ基キ金額適宜減少ノ方法ヲ設ルハ苦シカラス
 (參考) 檢査察附例第一號 十月六月
 一片道三里以上六里未滿ニシテ一泊セシムルキハ一日分ノ日當給ヲ給シ入營都合ニ依リ午後ニ至ル者ハ金五錢以下ヲ以適宜支給ス可シ

徵兵署及檢査場品表

備考	徵兵署										檢査場									
	品目	員數	保存期限	品目	員數	保存期限	品目	員數	保存期限	品目	員數	保存期限	品目	員數	保存期限					
	人別檢査表板木	四脚	十五年	身幹度尺	一個	五年	茶	一個	全上	炭	一個	全上	茶	一個	全上					
	椅子	十八脚	全上	藤臺並蒲團枕	一個	十五年	炭	一個	全上	炭	一個	全上	炭	一個	全上					
	墨硯箱	六面	全上	椅子	八脚	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	朱硯箱	六面	全上	墨硯箱	三面	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	小火鉢	六箇	期限ナシ	朱硯箱	二面	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	朱肉入	一箇	全上	朱肉入	一箇	期限ナシ	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	水入	三箇	全上	大火鉢	三面	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	糊入	三箇	全上	小火鉢	五箇	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	狀刺	四箇	全上	水入	二箇	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	茶器具	老木	全上	糊入	二箇	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	茶器具	老式	期限ナシ	狀刺	四箇	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	品目	徵兵百人ノ額	二十枚	茶器具	一個	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	西ノ内紙	二十枚	全上	水洗桶	一個	三年	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	半紙	二十枚	全上	茶器具	一個	期限ナシ	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
	筆等試驗簿	該府縣別	全上	水洗桶	一個	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上					
筆等試驗簿	該府縣別	全上	水洗桶	一個	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上						
墨	六挺	全上	水洗桶	一個	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上						
朱墨	六挺	全上	水洗桶	一個	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上						
炭	一百小大鉢箇二月	全上	水洗桶	一個	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上						
茶	湯湯百五十支	全上	水洗桶	一個	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上	朱墨	全上	全上						

一 固有品ノ保存年數ハ各地品物ノ種類ニ從テ異ナリテ五九豫ノ年期ヲ立テ其長短ハ是ヲ實際ニ按ル
 一 消耗品ハ總テ百人ヲ以テ比較シ百人以上ノ端數二十五人迄ハ四分ノ一二十五人以上五十人迄ハ半數五十人以上ヨリ全數ヲ給ス百人以存ノ時此例ニ準ス

○第二章 後備軍之部

○第一款 陸軍 明治八年
省 達 十月廿三日

後備軍召集條例別冊之通相定候條此旨相達候事

後備軍召集條例

第一條 凡後備軍召集法ハ平時戰時共速ニ之ヲ召集シ得且隊伍ニ
編制スルヲ容易ニシテ枝梧ナキヲ要ス爰ニ記載スル所ノモノハ概
テ平時復習ニ當テ召集スルノ順序トス然レモ戰時ニ在テ召集スル
法モ亦此例ニ據ル唯其緩急ヲ異ニスル而已

第二條 復習ノ爲メ第一後備兵ヲ召集シ之ヲ各隊ニ分配スルハ
戰時ノ人員ニ適當スルヲ以テ別ニ隊伍ヲ編制スルヲナク營所或ハ
分屯ノ地ニ召集シ戰時ノ人員トナシ復習セシムルヲ法トス尤在營
中ハ百事常備兵ト異ナルヲナシ

第三條 毎年ノ復習ハ二月ヨリ五月中便宜ヲ量リ陸軍卿ノ許可ヲ
得テ之ヲ行フ而シテ其期限ハ概テ四週間乃至八週間ヲ以テ例トス
然レモ時トシテ之ヲ變更セサルヲ得ス

但軍隊ノ都合ニヨリ八月ヨリ十月中ニ延期スルヲモアルヘシ
第四條 凡ソ復習ノ術科ハ左表ノ通タルヘシ然リト雖モ該臺司令
長官ハ時宜ニ依リ之ヲ取捨スルヲ得ヘシ

復習術科表

後備軍召集條例第四條復習術科表	
砲 山 砲 卒	砲 取 卒
體操	體操
生兵運動	生兵運動
徒歩 小隊運動	徒歩 小隊運動
小銃 射的術	小銃 射的術
徒歩 大隊運動	徒歩 大隊運動
砲 使用	馬 生兵運動
分隊運動	砲 使用
砲隊運動	分隊運動
砲 射的術	砲 射的術

○第二章 後備軍之部

○第一款 陸軍 明治八年
省 達 十月廿三日

後備軍召集條例別冊之通相定候條此旨相達候事

後備軍召集條例

第一條 凡後備軍召集法ハ平時戰時共速ニ之ヲ召集シ得且隊伍ニ
編制スルコト容易ニシテ枝梧ナキヲ要ス爰ニ記載スル所ノモノハ概
テ平時復習ニ當テ召集スルノ順序トス然レモ戰時ニ在テ召集スル
法モ亦此例ニ據ル唯其緩急ヲ異ニスル而已

第二條 復習ノ爲メ第一後備兵ヲ召集シ之ヲ各隊ニ分配スルハ
戰時ノ人員ニ適當スルヲ以テ別ニ隊伍ヲ編制スルコトナク營所或ハ

第五條 第一後備兵ノ召集ハ凡ソ一ケ月前ニ所管鎮臺司令長官ヨ
リ其府縣ニ左ノ書東ヲ以テ通報スヘシ
但料紙ハ美濃紙ヲ用ユ第十三條第二十三條皆同シ

來ル何月何日ヨリ定例ノ通第一後備軍操練復習爲致候條其管下
同軍各兵へ兼テ御布達可有之最召集手續詳細之義ハ其府駐在會
長ヨリ該區長へ通達ニ可及候此段及御達候也

何鎮臺司令長官

年號月日

官姓名

府縣知事令宛

第六條 召集ノ期ニ至レハ後備軍司令ハ該臺司令長官ノ命ヲ奉シ
府縣駐在ノ會長ニ達シ第一後備兵ヲ召集セシムヘシ

第七條 駐在會長ハ復習ノ期ニ於テ事務極メテ繁劇ナルハ後備
軍司令ノ許可ヲ得テ其地方後備兵ノ内元下士ニ服役シタル者一二
名ヲ撰拔シテ助手トナスコトヲ得ヘシ

第八條 各駐在會長其府縣下ノ兵員ヲ集合セシムル場所ヲ第一集

合所ト云ヒ而シテ後備軍司令ノ許ニ集合スル場所ヲ第二集合所ト
云フ

第九條 第一集合所ニ於テ後習中居民ノ倉庫或ハ家屋ヲ借受テ各
兵ノ零服及ヒ私服ヲ入ルヘキ用ニ供スヘシ

第十條 後備軍司令ハ豫メ鎮臺司令長官ノ許可ヲ得テ武庫主管ヨ
リ武器ヲ請取リ後備兵到着ノキ分與スヘキ準備ヲ爲シ置クヘシ
第十一條 後備軍司令ハ召集ノ各員ニ應シ通行免狀ヲ製シ豫メ駐
在會長ニ渡シ置ヘシ

第十二條 後備軍司令ハ召集ニ先チテ名營所ニ分配スル兵員ヲ豫
算シ一府縣下ノ兵員許多ノ差ヲ生シ一營所ニ送附スルノ員ニ剩餘
或ハ不足ヲ生スルハ他府縣ノ兵ト交互受付スヘキヲ前以テ駐
在會長ニ達シ置クヘシ

但兵員寡少ニシテ各營所ニ分配スルニ足ラサルキハ該臺司令長官ノ許可ヲ得テ彼ノ營所ヲ省キ此ノ營所ノミ集合スルヲアルヘシ

第十三條 駐在會長ハ後備軍司令ノ命ヲ受ケ左式ノ書翰ヲ作り其人員ニ應シ通行免狀ヲ併セテ該府縣ノ區長ニ送達スヘシ

書式

第何大區何小區何郡何村住第一後備軍兵卒

明治何年兵種番号

姓名

同

同

同

此度定例之通操練復習有之候條右人員來ル何月何日某地へ無相

達到看候様御取計可有之候也

年號月日

何府縣駐在官姓名印

某府縣第何區長御中

追テ通行免狀何枚差送候條各員へ御分配可有之候也
通行免狀雛形寸法左ノ通

但厚紙ニテ製スヘシ

五寸

通行免狀

後備軍司令印

此免狀ハ歸郷ノ上直子ニ區長へ差出スヘシ

第何軍管第何師管後備軍兵卒
明治何年兵種 第何番 姓名
自何府縣何大區何小區何村町至何々營所往復

還

一族費

金何程

所持

金何程

一何年何月何日發途

區長或ハ戶長

姓名印

何府縣第何大區何小區

區長或ハ戶長

姓名印

何日ヨリ何日迄病氣或ハ何々ニ依テ滞在

右同新

姓名印

一何月何日何地乘船何月何日何地上陸

何船長

姓名印

還

一族費

金何程

所持

一何年何月何日發途

後備軍書記

官姓名印

其他書法上ニ同ジ

第十五條 區長ハ召集ノ後備兵若シ病氣或ハ事故出來召集ニ應シ難キ者アルキハ徵兵令第六章第三條ニ準シ各兵到着當日ニ第一集合所出張ノ駐在會長ヘ遺漏ナク届出ヘシ

第十六條 駐在會長ハ預ル所ノ被服ヲ兼テ第一集合所ニ輸送シ置キ而シテ集合前日迄ニ同所ニ出張シ事務ヲ辦理スヘシ

第十七條 駐在會長ハ後備兵到着ニ當テ通行免狀ヲ檢査シ人員ヲ較計シ兼テ預ル所ノ帽衣袴靴等ヲ分付シ其私服ヲ纏メ一名毎ニ木札ヲ付ケ之レニ番號及ヒ姓名ヲ記シ第九條ノ倉庫或ハ家屋ニ藏シ置キ又各區長ヨリ差出ス不忝ノ届書ヲ取纏メ然ル後營所或ハ分屯ノ地ニ導クヘシ

第十八條 若シ第十二條ニ揭示スル如ク他府縣駐在ノ會長ニ交付スヘキ兵員アルキハ其員中ニ就テ一二名ヲ撰擢シ之ニ取締ヲ命ジ

他ノ集合所ニ送附スヘシ

第十九條 後備軍司令ハ後備兵ノ到着セシキ名簿及ヒ病氣事故等ニテ不忝ノ者ノ届書ヲ照査シ各員ニ武器ヲ分與シ然ル後之レヲ各隊長ニ交付スヘシ

第二十條 師管ニアラサル管所或ハ分屯ノ地ニ在テハ後備軍司令豫メ武器ヲ輸送シ且副官ヲ差遣シ召集ノ事務ヲ總理セシムヘシ

第二十一條 各隊長ハ後備軍司令ヨリ兵員ヲ受領シ之ヲ隊中ニ分賦スヘシ

第二十二條 後備兵病氣或ハ事故等ニテ召集ニ應セサル者復習ノ半ハ迄ニ治癒シ或ハ事故了ルキハ區長直ニ此者ニ通行ノ免狀ヲ與ヘ駐在會長ノ許ニ至ラシムヘシ

第二十三條 前條ノ者到着スレハ駐在會長ハ通行免狀ヲ檢シ被服

ヲ與ニ後備軍司令ニ左ノ書簡ヲ添ヘ直ニ出途ヲ命スヘシ

書式

何府縣第何大區何小區何村第一後
備軍兵卒

明治何年兵種番號

姓名

右之者病氣全快或ハ事故相濟候旨届出候ニ付本日爲致發程候也

年號月日

何府縣駐在

官姓名印

後備軍司令宛

第二十四條 後備軍司令ハ復習竣ルノ前豫メ後備兵ノ旅費ヲ請取
置キ當日ニ至リ配當スルノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第二十五條 復習竣ルノ翌日各隊長ハ後備軍司令ト共ニ後備兵ヲ

整列場ニ導キ人員武器ノ檢査ヲ爲シ檢査了レハ直ニ武庫主管ニ武
器ヲ返却シ會長一名軍曹一二名ヲシテ第二集合所ニ導カシムヘシ
第二十六條 其兵員第二集合所ニ到着スルハ後備軍司令ハ各員ノ
通行免狀ヲ檢査シ旅費ヲ渡シ其員中ニ就テ一二名ヲ選擇シ之ニ取
締ヲ命シ第一集合所ニ到ラシムヘシ
第二十七條 復習終ルノ日限ニ至レハ駐在會長再ヒ第一集合所ニ
出張スヘシ

第二十八條 後備兵第一集合所ニ到着スルハ駐在會長各員ノ通
行免狀ヲ檢査シ而シテ其被服ト私服トヲ交換シ各自歸路ニ就カシ
メ其被服ハ己レノ駐在所ニ送ルヘシ

第二十九條 後備兵若シ途中於テ故意被服ヲ破綻スル等ノ所業ア
ルハ取締ノ者之ヲ取糾シ其姓名ヲ筆記シ置キ第一集合所ニ到着

セシキ駐在會長ニ届出ヘシ

第三十條 駐在會長右等ノ者ノ姓名書ヲ受取ルルハ更ニ本人ヲ取
糺シ而シテ後其事由及姓名ヲ報告書ニ記載シ後備軍司令ニ上申ス
ヘシ

第三十一條 復習終リ歸郷スルキニ當リ若シ病氣ニ依テ出發スル
コ能ハサルキハ全快ヲ待テ歸郷ヲ命スヘシ

但病症ニヨリ不得止キハ醫官ノ診斷書ヲ証シ車駕料ヲ給スルコ
アリ然ルキハ其事由ヲ通行免狀ノ内ニ書載スヘシ

第三十二條 復習終テ歸郷セシムルノキニ當リ在營中ノ犯罪軍律
ニ係ル者ハ裁判官ニ引渡スヘシ其懲罰ニ屬シ期限未タ滿タサル者
ハ其儘歸郷セシメ曹長ヨリ本人住居ノ區長ニ報知シ殘餘ノ罰ハ自
宅ニ於テ禁錮セシムヘシ

第三十三條 後備兵各自歸郷スレハ區長ハ直ニ通行免狀ヲ取纏メ

三十日以内ニ郵便ヲ以駐在曹長ノ許ニ返附スヘシ

○第二款 大阪鎮臺伺

徵兵令第六章第九條ニ依リ後備軍籍ノ者他軍管へ轉居願出ルル軍
籍編入替ノ義ハ其身元轉籍スル者ニ限り寄留ノ者ハ單身ハ勿論全
戸寄留ト雖ヒ其寄留年月ノ長短ヲ論セス編入替難聞届義ト存候得
共自今願出候者モ有之候ニ付爲念此段相伺候也

陸軍 指令 九年七
省 月一日

伺之趣單身寄留ノ外編入替聞届不苦候事

○第三款 陸軍 達 九年九月廿三日
省 第四百四十六号

後備軍服役中他家ノ養子トナリ或ハ分家相續人等ニ取極度者ハ復
習並非常ノ際無故障召募ニ應スヘキ後證ヲ以其管廳ニ願出其應ニ

於テ篤ト事實ヲ取糾シ無相違者ハ聞届直ニ所轄鎮台へ届出候様可
致此旨相達候事

第一編 郡政 正誤

三丁	六行	苦ハ若ノ誤
十六丁	四行	八款ハ十一款ノ誤
廿六丁	三行	二章ハ三章ノ誤
廿六丁	四行	三章ハ四章ノ誤
廿七丁	欄外	八款ハ十一款ノ誤
三十二丁	二行	得スノ上ヲチ脱ス
三十四丁	二行	否ノハチノ誤
四十八丁	九行	所ノ下建ヲ脱ス
五十五丁	十一行	府知事ハ府縣會ノ誤

第二編 人事

二丁	一行	書モハ最モノ誤
二丁	六行	取ハ數ノ誤
三十一丁	九行	家ノ下旅何ヲ脱ス
五十三丁	六行	尤ハ凡ノ誤
九十四丁	十二行	可然ハ可依ノ誤
百廿二丁	一行	進ハ追ノ誤
百廿六丁	三行	居ルヲハチノ誤
百四十七丁	三行	入ノ下夫ヲ脱ス
百六十六丁	九行	嗣子ハ嗣子ヲノ誤
百九十五丁	一行	成ハ願ノ誤
二百廿二丁	四行	起ハ超ノ誤
同	十二行	知ハ細ノ誤

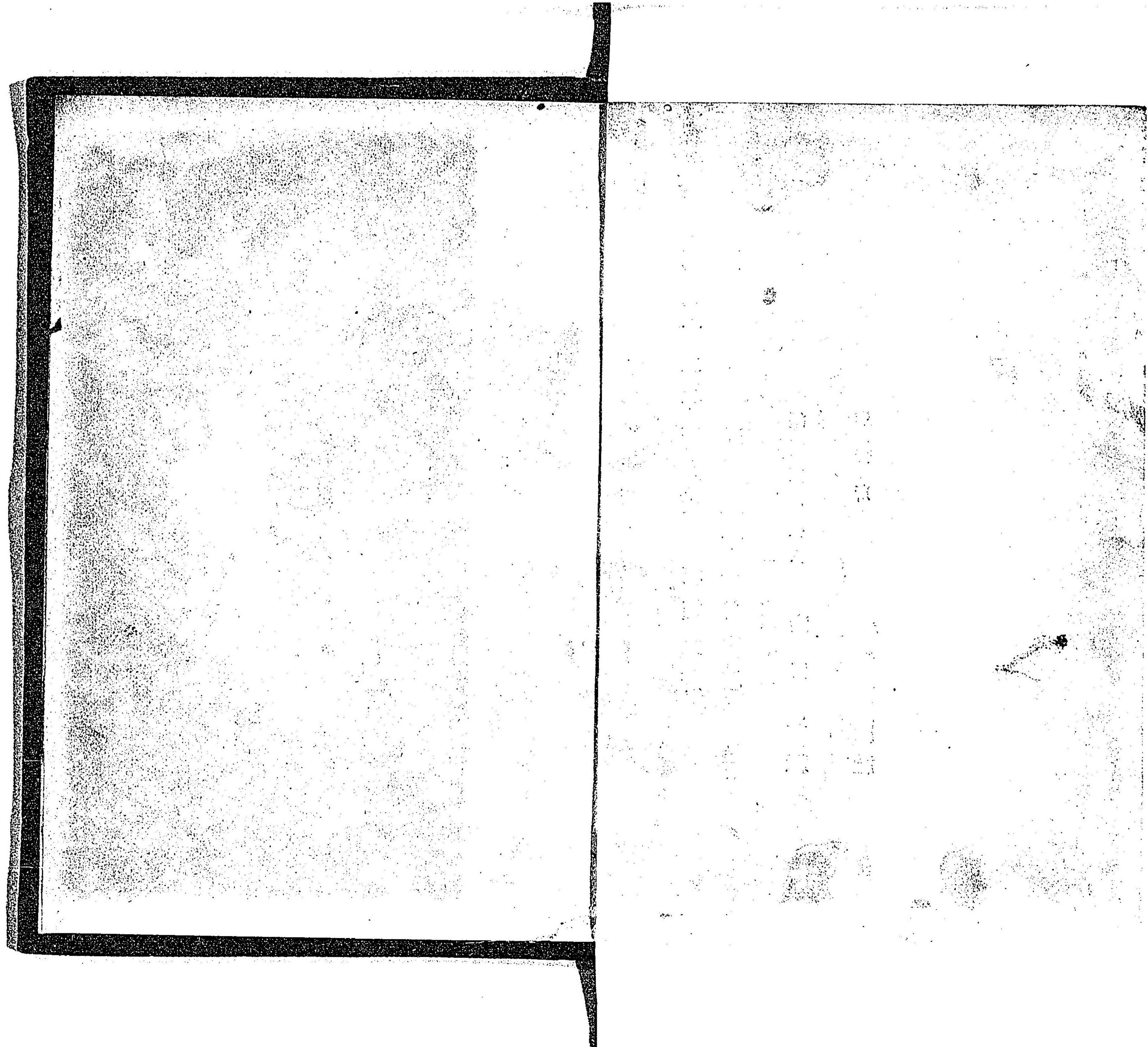
二百三十一丁	十行	三第ハ顛倒
二百四十九丁	十一行	谷ハ各ノ誤
二百五十八丁	欄外	八ハ六ノ誤
二百八十五丁	二行	左ハ在ノ誤
第三編 兵事		
二丁	十行	大ハ太ノ誤
五丁	十二行	股ハ服ノ誤
七丁	八行	業ノ下ノヲ脱ス
十三丁	十一行	村ハ材ノ誤
十四丁	六行	士ハ士ノ誤
十六丁	一行	兵役ハ徵兵ノ誤
同	四行	ルハ衍

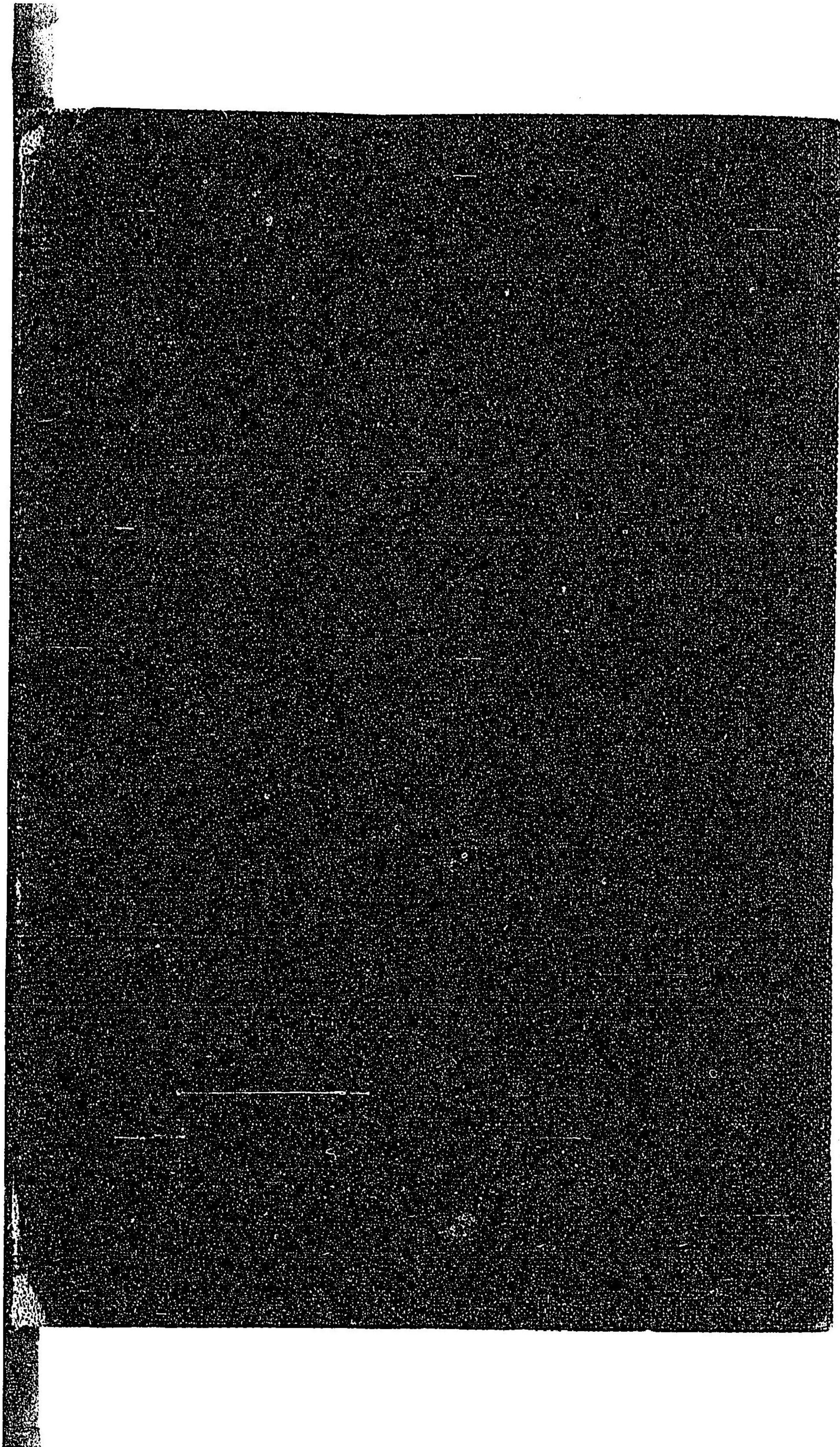
同	第四條欄外ノ注書ハ第三條ニ附ス
十八丁	一行 在ノ下役ヲ脱ス
四十三丁	二行 醫ノ下ハハ術
同	九行 營ハ員ノ誤
四十七丁	一行 新ハ親ノ誤
六十二丁	五行 存ハ在ノ誤
七十四丁	七行 表ノ下備ヲ脱ス
同	十二行 謝ノ下金ヲ脱ス
七十九丁	七行 各員ハ兵員ノ誤
同	九行 名ハ各ノ誤
八十三丁	五行 管ハ營ノ誤

明治十二年三月六日板權免許
同 五月三十一日出版

編輯兼出版人 滋賀縣平民 山口重
滋賀縣下大津下大門町
滋賀新聞社
印行所

滋賀新聞社





館書圖京東	
函五二	門新
架五	部十
號	類二

禁電子式複写

030883-000-9

CZ-5-090

官民便要

山口 重祿/編

M12

BBC-0108

